

テンサイシストセンチュウとは

学名 : *Heterodera schachtii* Schmidt, 1871

英名 : beet cyst nematode

分布

韓国、パキスタン、イスラエル、イラク、イラン、ヨルダン、トルコ、ヨーロッパ、ロシア、カーボヴェルデ、カナリア諸島、ガンビア、セネガル、南アフリカ、米国、カナダ、メキシコ、チリ、ペルー、オーストラリア、ニュージーランド、ハワイ諸島等

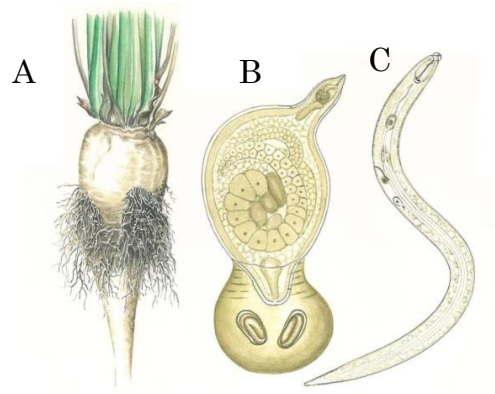


図 テンサイシストセンチュウ
A : ふだんそう属の被害根
B : 雌成虫 C : 幼虫

寄主植物

しよくようだいおう、ほうれんそう、あぶらな属（野沢菜、カリフラワー、ブロッコリーなど）植物及びふだんそう属（てんさいなど）植物の生植物の地下部

被害

てんさいでは生育の遅れや黄化症状、地上部のしおれなどが見られ、枯死する場合もある。被害株の地下部はひげ根が異常に増え、奇形となり収量が著しく低下する。

人への影響

人畜には無害であり、本線虫が付着した野菜を食しても人の健康を害することはない。